

お お  
町 が き  
ち よ う  
大 垣 町

## 古くは東西南北の大垣

平安時代中期から「大垣」という地名が数々の古文書に、南都・興福寺関連の荘園（しようえん＝領地）として登場します。この地名が登場する古文書を整理しますと東・西・南・北の「大垣荘」が、飛鳥川の流れに沿って川の両岸に広がっていたようです。

このうち東大垣荘が現在の田原本町字多付近に、西大垣荘が同町の字多・満田から檀原市西新堂・大垣・飯高町あたりに、南大垣荘が檀原市の西新堂・新口・内膳町一带に、北大垣荘が田原本町の字三笠・秦荘付近にあったようです。従って古代から中世に至る間の「大垣」は、檀原市北部から田原本町の南部にかかる、相当広範囲に広がる田園地帯を占めていたようです。

江戸時代に入ると、ほぼ現在の大垣町に相当する地域が「大垣村」と呼ぶ幕府領となり、元和五（一六一九）年から郡山藩領となって明治時代を迎えます。明治一五年ごろの戸数が三四戸、人口が一六八人で、物産が米・麦・小麦・大豆・菜種などの農産物でした（町村誌集）。

はじめ多村に属したあと明治二二年に田原本町の字となり、昭和三二年に「檀原市大垣町」となりました。